

6月の地震活動概観

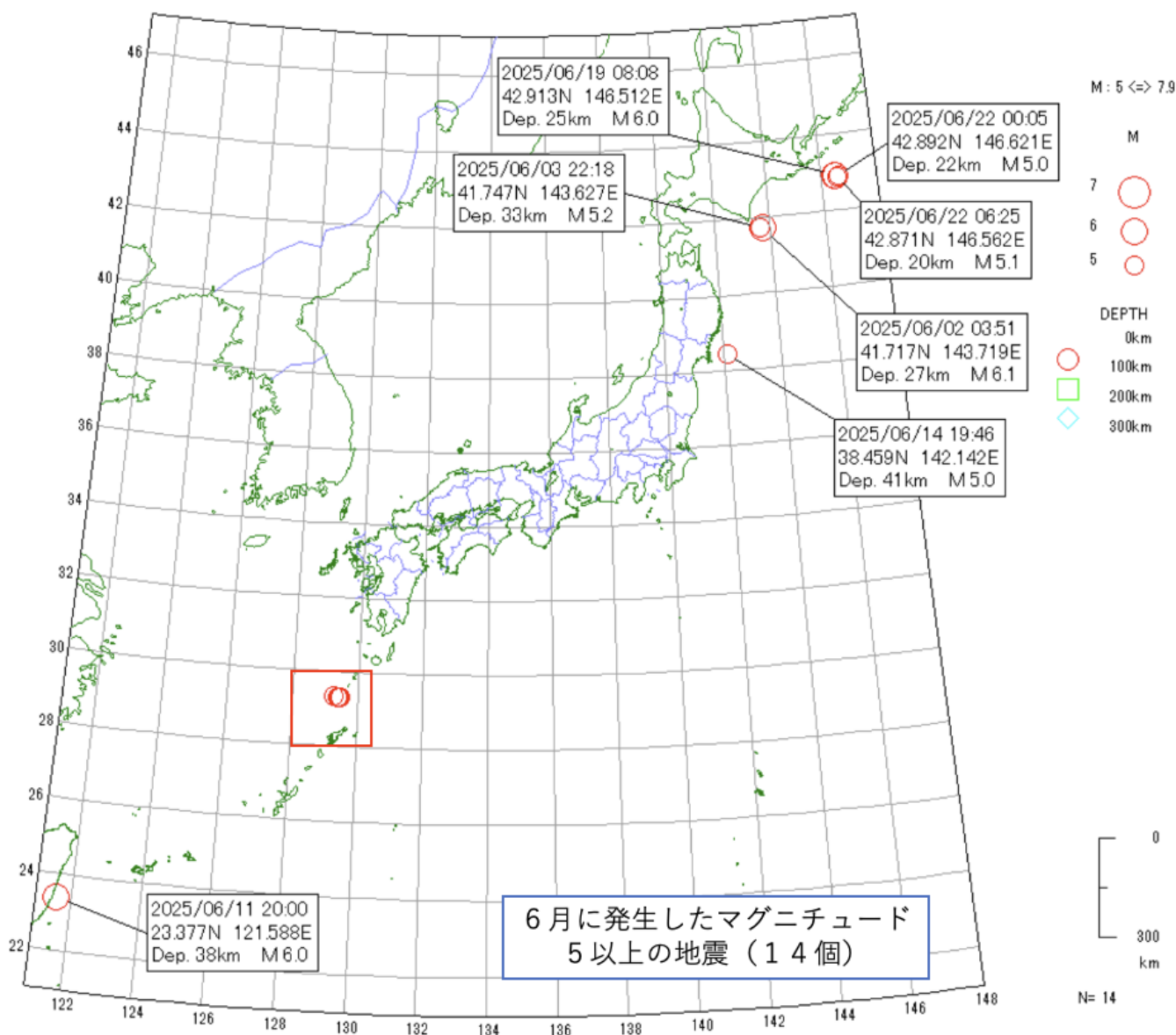
6月は北海道沖の地震活動が5月に引き続き活発な状況が続いています。また6月21日以降、鹿児島県・トカラ列島で激しい群発地震活動が始まり、7月5日になっても終息の目処が立っておりません。

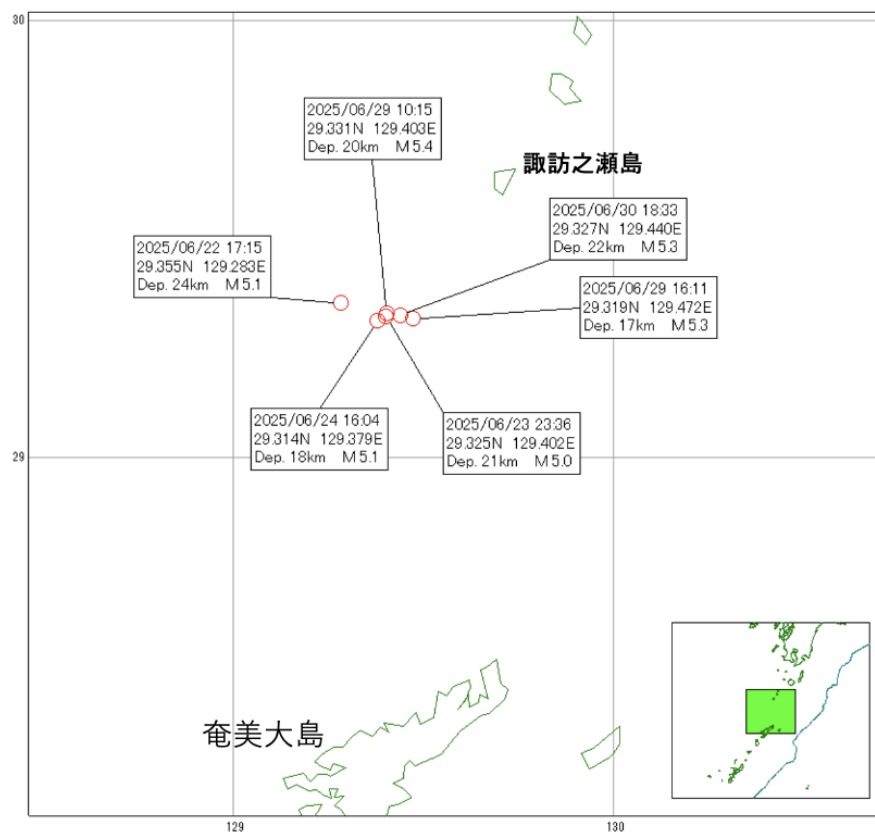
トカラ列島では2021年以降、激しい群発地震活動が3回あり、今回のものが4回目なのですが、今回の群発地震活動が圧倒的に激しいものとなっています。ここ数日、群発地震は火山性の可能性も指摘されるようになっていきます。

このニュースおよびトカラの群発と南海トラフ巨大地震との関係、耐震補強等について、7月4日のAbemaTVで解説しました。以下のYouTubeでその内容を見ることが可能です。

https://www.youtube.com/watch?v=Z-ubW_w-f5w

6月には14個のマグニチュード5以上の地震が発生しました。トカラ列島周辺の活動については、次のページに拡大図でお示しします。

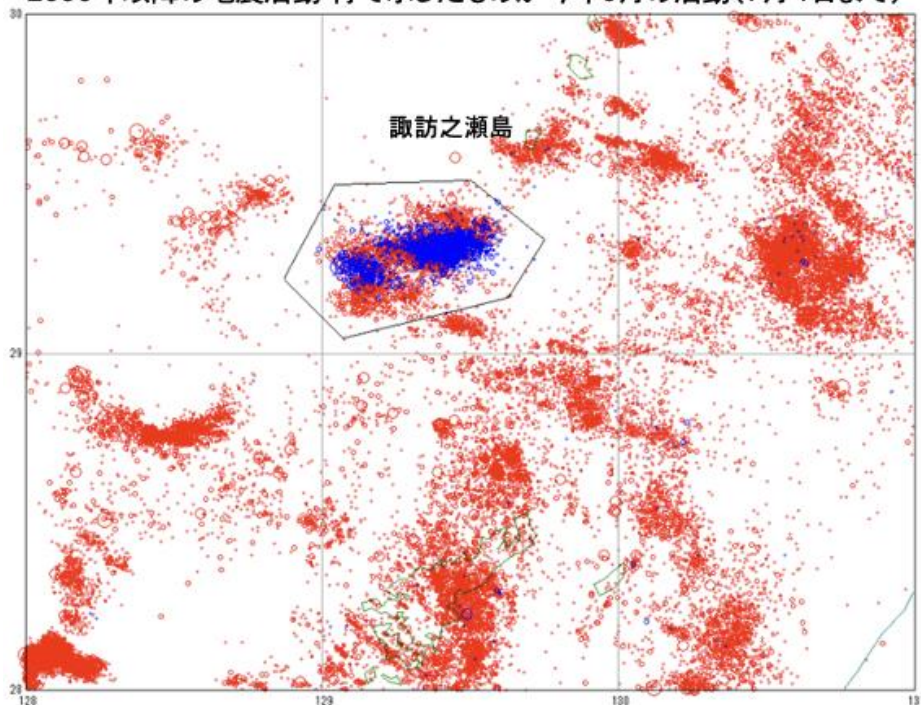




トカラ列島周辺で5月に発生したマグニチュード5以上の地震(6個)

次にお示しするのは、同地域の過去25年間の地震活動です。赤い小さな点は震央を表しており、青い点が今回の6月に開始した群発地震活動で、7月4日までの地震を示しています。

2000年以降の地震活動 青で示したものが今年6月の活動(7月4日まで)



もともとトカラ列島を含む九州南方海域は地震多発地域になっています。また巷間、「トカラの法則」というトカラで地震が起きると、その後日本のどこかで大きな地震が起きるといのは、全く科学的根拠はありません。このあたりの説明は次週以降に行いたいと思います。

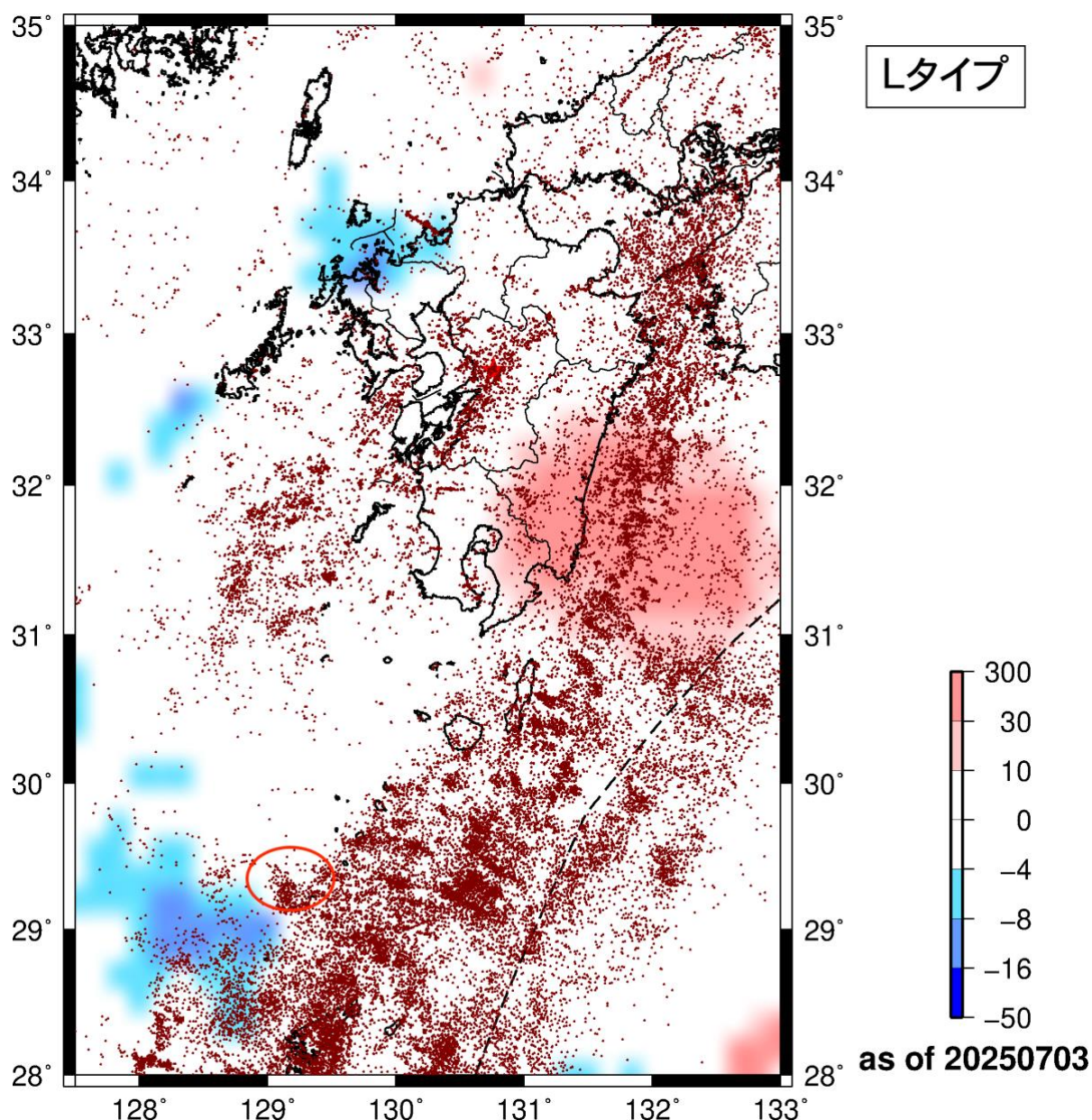


九州およびその南方海域と北海道の地下天気図®

今週は拡大九州地域と北海道のLタイプ地下天気図をお届けします。下の地図でトカラ列島周辺で現在群発地震活動が続いているのが図中で**赤の楕円**で示した領域です。

地下天気図解析では余震を取り除く処理(デクラスタ処理と言います)を行っているため、今回のトカラ列島の群発地震活動のように、狭い領域で四六時中地震が発生する状況では、全体として大きな地震が1個というような処理をしています。そのため、6月21日から開始した群発地震活動はここでは地震活動活発化としてはまだ認識されていません。

それに対し、宮崎県沖の日向灘の地震活動活発化は、余震というものを除去してもバックグラウンドの地震活動が上昇していることを意味しています。



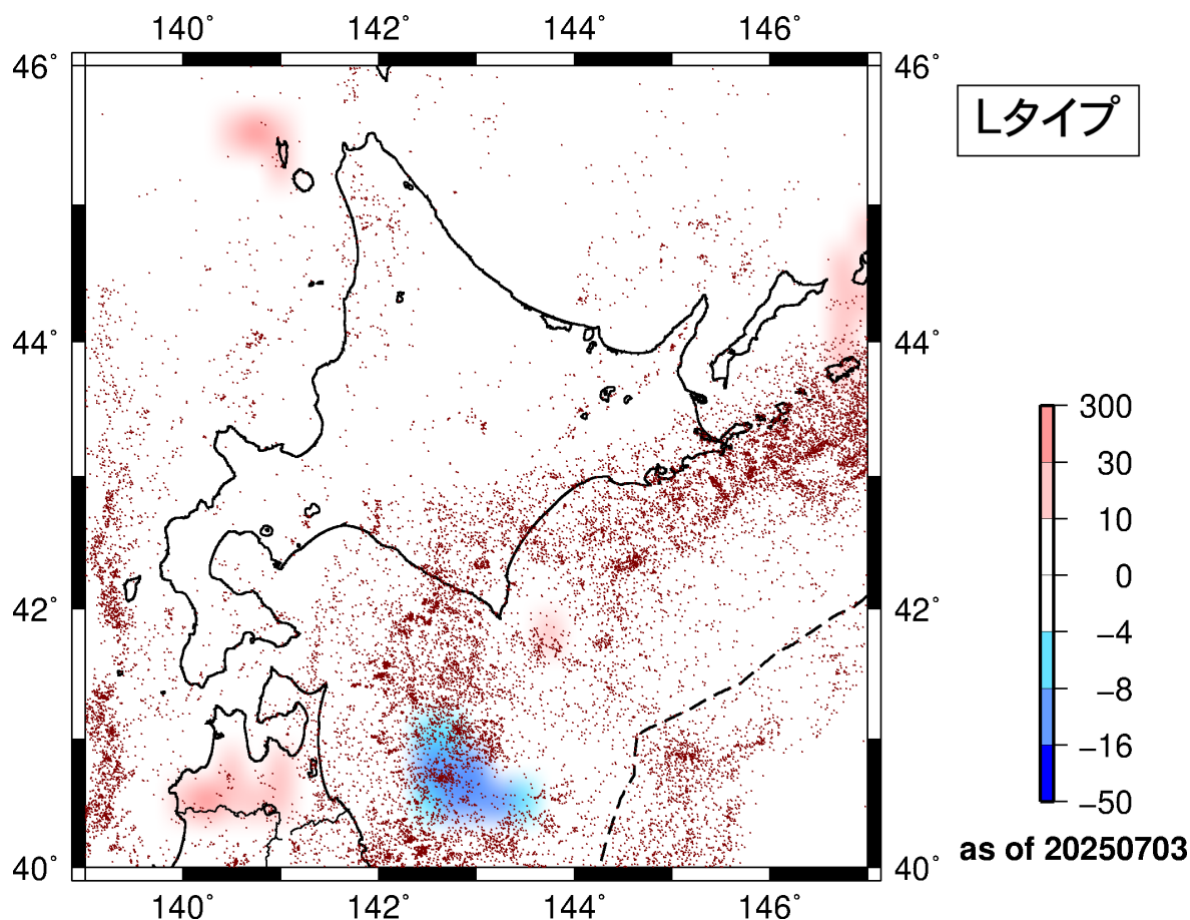
興味深いのは、トカラ列島よりさらに南西の領域で青い地震活動静穏化が見られる事です。こちらの異常に DuMA としては今後注目していきたいと思います。

また福岡県・佐賀県にかけての地震活動静穏化はまだ継続している事もわかりました。



次の図は北海道および東北北部のLタイプ地下天気図です。今回の解析から、緯度で1度だけ南側に(北緯40度まで)解析範囲を延長しました。

青森県東方の地震活動静穏化は6月2日の東北地方海域の解析でも確認されている異常です。



トカラ列島の群発だけでなく、新燃岳の噴火もあり、両者の関連や南海トラフ巨大地震との関連を心配されるのは当然の事と思います。

これは AbemaTV の中でも触れましたが、トカラ列島の群発地震活動が引き金となっているのではなく、フィリピン海プレートの縁辺部での活動が高まっているためとも考えられ、原因と結果が逆ではないかと考えています。

昨年8月には史上初の南海トラフ臨時情報が発表されました。そしてトカラ列島では2021年度以降、群発地震活動が極めて活発になっています。このような観測事実が積み重なり、将来の南海トラフ巨大地震につながるものと考えています。